

2020年3月2日  
国立情報学研究所  
学術コンテンツ課

## 2019年度 学術情報流通推進委員会 活動報告

第1期基本方針のもと、2019年度は次の活動に取り組んだ。

### (1) 国内ステークホルダーとの協調

- 学術情報流通推進委員会の開催及び各ステークホルダーの活動に係る情報共有
- ポジションペーパー及び俯瞰図の作成

2019年度は学術情報流通推進委員会を2回開催した。第1回では各ステークホルダーの活動状況報告を行い、第2回では各ステークホルダーの活動に係る課題や連携の可能性等をまとめたポジションペーパーを作成し、情報共有を行った(予定)。

【詳細は、資料3を参照のこと】

### (2) 国際協調に係る戦略の検討と提言

- arXiv.org の活動支援
  - arXiv.org の利用頻度が高い国内機関に対して2019年の参加意向調査を行い、その結果に基づいて会費の取りまとめと arXiv.org 事務局への支払いを行った。
  - 日本の参加機関を代表して武田委員長が、2019年10月10日にコーネル大学で行われた Member Advisory Board 会議に出席した。事前に国内参加機関に対して arXiv.org への要望や質問を照会し、武田委員長に会議での確認を依頼した。  
【会議の議事については、参考資料3-1を参照のこと】
  - 今後は、2020年の参加意向について、既参加機関を中心に調査を行う。
- CLOCKSS の活動支援
  - JUSTICE 会員館を中心に2019年の参加意向調査を行い、その結果に基づいて会費の取りまとめと CLOCKSS 事務局への支払いを行った。
  - 日本の参加機関を代表して武田委員長が、2019年9月26日にスタンフォード大学で行われた CLOCKSS Board of Directors 会議に出席した。本会議の議事を、11月に行われた JUSTICE 運営委員会で報告した。  
【会議の議事については、参考資料3-2を参照のこと】
  - CLOCKSS 事務局が発行しているブローシャ (CLOCKSS サービスの概要をまとめたチラシ) の日本語訳を作成し、CLOCKSS web サイトにて公開した。
  - 現在、2020年の参加意向について、既参加機関を中心に調査を行っている。

● SCOAP<sup>3</sup>の活動支援

- フェーズ 2 (2017-2019 年) を支援する国内機関を中心に 2019 年の参加意向調査を行い、その結果に基づいて会費の取りまとめと SCOAP<sup>3</sup> 事務局への支払いを行った。
- 日本の参加機関を代表して野崎委員が、10 月 29~30 日に CERN で行われた Governing Council 会議に出席した。  
【会議の議事については、参考資料 3-3 を参照のこと】
- 高エネルギー物理学分野の研究者コミュニティと SCOAP<sup>3</sup> の現況を共有し、今後の対応を検討すべく、「SCOAP<sup>3</sup> 推進のための検討会議」を開催した。この会議において論文投稿者の割合が多い機関の追加拠出の方策を検討し、検討会議メンバー、NII 職員から該当機関の図書館長等に説明した。この結果、いくつかの機関において、図書館拠出分に追加する形で支援金を拠出することになった。
- 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に「SCOAP<sup>3</sup> タスクフォース」を設置し、フェーズ 3 (2020-2022 年) における国内図書館コミュニティの支援のあり方を検討した。この検討結果に基づいて、現在、2020 年の参加意向について国内大学図書館等に調査を行っている。  
【会議の議事については、参考資料 3-4 を参照のこと】

● その他

- Open Access Week (2019 年 10 月 19~25 日) のテーマ及び趣旨説明の日本語訳を作成し、Open Access Week サイトにて公開した。

(3) アドボカシー活動の実施

● SPARC Japan セミナー2019 の開催

- 企画 WG を組織して (主査: 林委員), SPARC Japan セミナー2019 を計 4 回実施した。また、講演者の許諾条件に基づいて、動画や講演資料等を SPARC Japan の web サイトで公開した。  
【詳細は、資料 2 別紙を参照のこと】

● 海外動向に係る情報発信

- 2018 年度に引き続き Plan S を題材として扱い、cOAlition S が公表したドキュメント 2 点 (「Accelerating the transition to full and immediate Open Access to scientific publications」及び「Rationale for the Revisions Made to the Plan S Principles and Implementation Guidance」) の和訳を公開した。また、Plan S に関連する基本的な web サイトへのリンクをまとめた、ポータルページを作成した (予定)。  
【詳細は、参考資料 3-5 を参照のこと】

● 広報物の作成及び公開

• 年報

2017 年度の英語版を web サイト発行した他, 2018 年度の日本語版を発行する予定である。年報には, 当期の基本方針, 当年度活動内容(セミナーの記録ほか), 委員会等の開催記録と名簿, 総合年表, SPARC Japan ニュースレター等を掲載している。

• SPARC Japan NewsLetter

37 号(日本語版)を発行した他, 36, 37 号(英語版)を発行する予定である。NewsLetter には, SPARC Japan セミナーの開催報告の他に, arXiv.org 等国际的なイニシアティブの活動概要も掲載している。

(4) 学術情報流通の動向に係る調査の提言

• 2018 年度に引き続き, JUSTICE が主導する日本の論文公表実態調査のフォローアップに協力している。

➤ 2019 年 5 月に, 日本の研究機関に所属する研究者の公表論文数, OA 率および APC 支払推定額の調査した「論文公表実態調査報告 2018 年度(公開版)」が JUSTICE web サイトで公開された。

SPARC Japanセミナー2019 実施状況

2020年3月2日

年間テーマ：「令和時代のオープンサイエンス」

国立情報学研究所 学術コンテンツ課

回	開催日時 (場所)	テーマ	企画WG (所属) ◎主査、五十音順	講師 (所属) 登壇順	参加状況											定員	動画利用状況 ※2/28時点	
					パート ナー誌	運営委 員	学協会	大学	研究者	大学図 書館	国立機 関	出版/ 印刷会 社	その他	NII	合計		動画中継 利用件数	アーカイブ動 画利用件数
1	2019年10月24日(木) 13:30-17:00 (国立情報学研究所 12F 会議室)	「人文社会系分野におけるオープン サイエンス～実践に向けて～」	鈴木 親彦 (国立情報学研究所 / 人文学オープンデータ共同利用センター) 中村 美里 (東京大学) ◎ 林 和弘(科学技術・学術政策研究所)	【講演者・モデレーター】 小木曾 智信 (国立国語研究所) 加納 靖之 (東京大学地震研究所/地震火山史料連携研究機構) 小野 英理 (京都大学) 鈴木 親彦 (国立情報学研究所 /人文学オープンデータ共同利用センター) 中村 美里 (東京大学)	0	2	1	7	3	14	5	3	15	4	54	70	302	253
2	2019年12月20日(金) 13:00-17:15 (筑波大学東京キャン パス文京校舎 120講 義室)	「オープンサイエンスを支える研究 者情報サービスとその展望」	高久 雅生 (筑波大学) ◎ 矢吹 命大 (横浜国立大学) 山形 知実 (北海道大学)	【講演者・モデレーター】 青木 学聡 (京都大学) 矢吹 命大 (横浜国立大学) 上原 藤子 (沖縄科学技術大学院大学) 海老澤 直美 (日本原子力研究開発機構)	0	1	0	16	1	22	12	3	19	3	77	70	203	255
3	2020年2月7日(金) 13:00-18:00 (国立情報学研究所 12F 会議室)	「実践 研究データ管理」	西村 恭佑 (富山大学) 林 賢紀 (国際農林水産業研究センター) 八塚 茂 (バイオサイエンスデータベースセンター) ◎	【講演者・モデレーター】 竹谷 喜美江 (名古屋大学) 山田 一作 (野口研究所) 熊崎 由衣 (日本原子力研究開発機構) 込山 悠介 (国立情報学研究所) 結城 憲司 (北海道大学/オープンアクセスリポジトリ推進協会) 林 賢紀 (国際農林水産業研究センター) 八塚 茂 (バイオサイエンスデータベースセンター)	0	1	1	10	3	21	7	4	16	3	66	70	289	動画未公開
2019年度参加状況(3回開催分)					0	4	2	33	7	57	24	10	50	10	197	210		

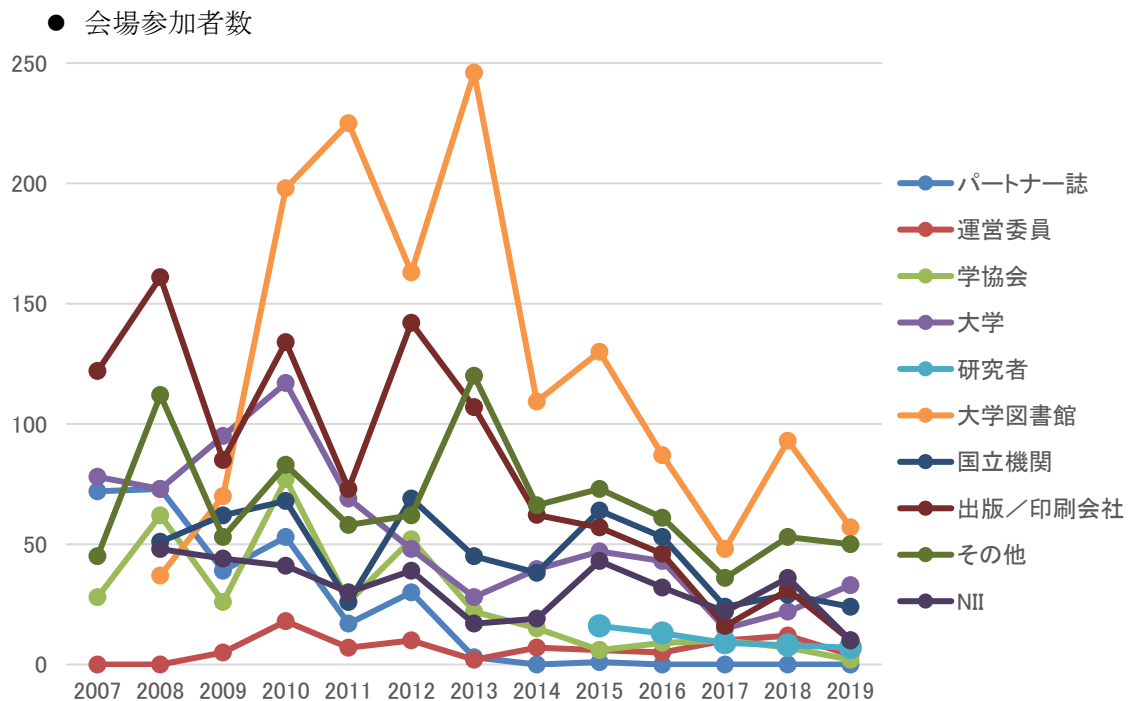
特別 編	2019年11月12日(火) 13:00-14:30 (パシフィコ横浜 第5会場)	第21回図書館総合展 「オープンアクセスの今とこれから～ ステークホルダーの戦略とともに考 える～」		【講演者・モデレーター】 林 和弘 (科学技術・学術政策研究所) 江川 和子 (東京大学/オープンアクセスリポジトリ推進協会) 笹渕 洋子 (早稲田大学/大学図書館コンソーシアム連合) 小賀坂 康志 (科学技術振興機構) 武田 英明 (国立情報学研究所)	/											210	200		62
---------	--	---	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	-----	--	----

※注

- ・発表資料・ビデオ映像・記録ドキュメント等はウェブサイト( <http://www.nii.ac.jp/sparc/event/> )で公開している。
- ・来場者の要望が多数あったこともあり、2017年度に続き、2019年度も主にスクール形式を採用し、来場者もPCを使えるようにするとともに、動画中継を行い、同時に自由に多くの人が視聴し参加できるようにした。
- ・参加者の属性は、参加申込時の申告に基づいている。例えば"NII", "大学"及び"国立機関"に研究者が含まれる。

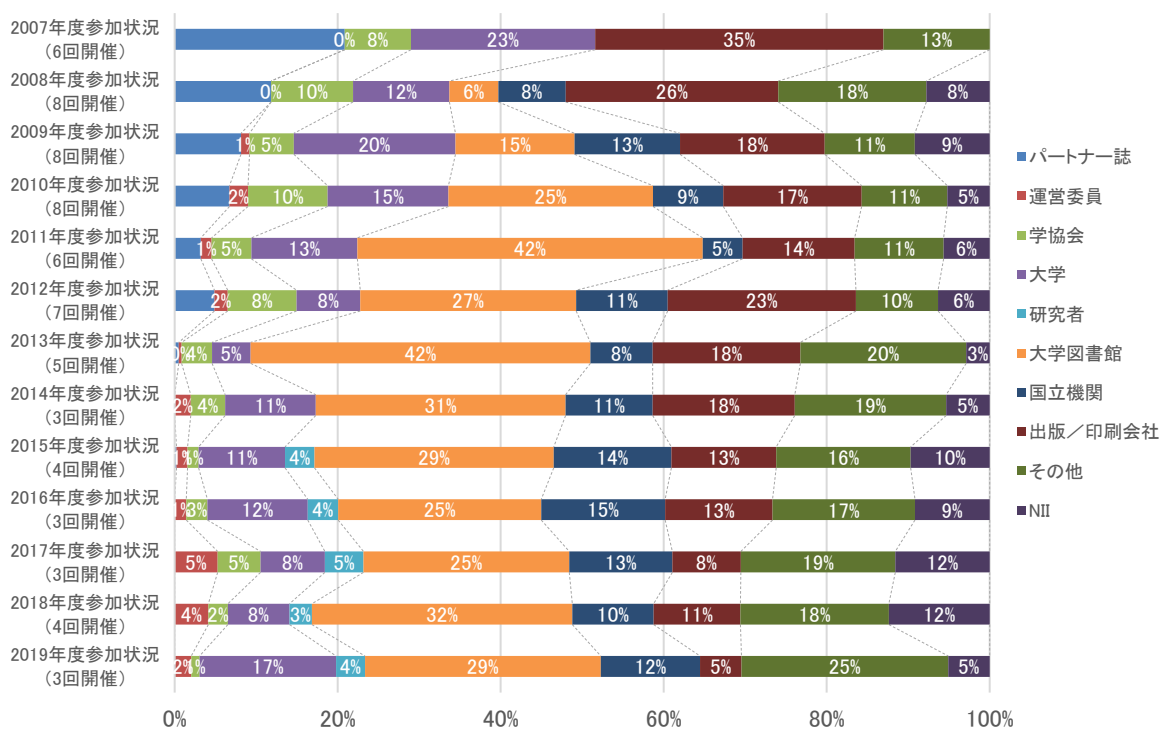
## ○ 参加者の経年変化

注)2017年度に定員枠の変更あり。また、2019年度の「特別編」は含めていない。

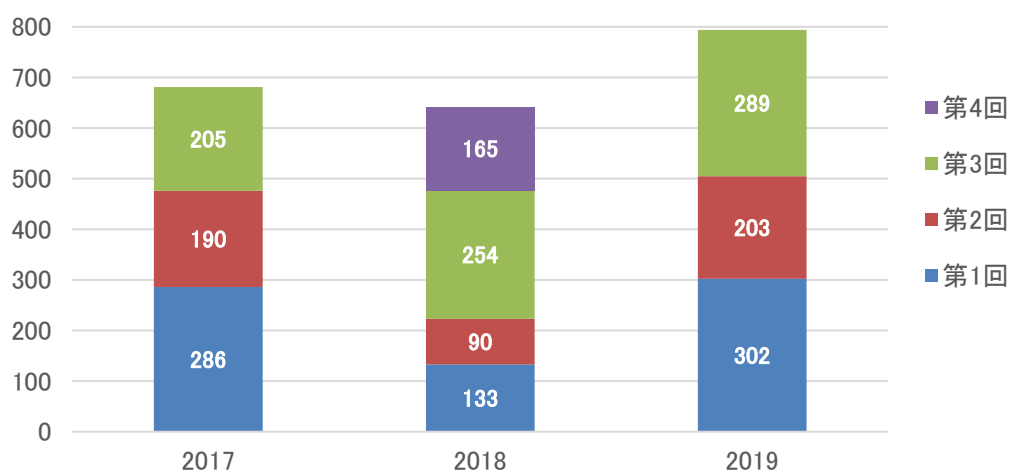


1回あたりの平均人数	
2007年度参加状況(6回開催)	58
2008年度参加状況(8回開催)	77
2009年度参加状況(8回開催)	60
2010年度参加状況(8回開催)	99
2011年度参加状況(6回開催)	89
2012年度参加状況(7回開催)	88
2013年度参加状況(5回開催)	118
2014年度参加状況(4回開催)	89
2015年度参加状況(4回開催)	111
2016年度参加状況(3回開催)	116
2017年度参加状況(3回開催)	63
2018年度参加状況(4回開催)	73
2019年度参加状況(3回開催)	66

● 会場参加者層の割合



● 当日の動画視聴者数



## 図書館総合展フォーラム企画(オープンアクセス枠)

## ○ 開催日時及び場所

2019年11月12日(火) 13:00-14:30 パシフィコ横浜

## ○ タイトル

「オープンアクセスの今とこれから。ステークホルダーの戦略とともに考える」

## ○ 概要

論文のオープンアクセスについては、オープンアクセスジャーナルの広がりやヨーロッパを中心とした Plan S による即座公開の動き、さらには「ハゲタカジャーナル」への懸念等、注視すべき動向や取り組むべき課題が山積している。主要な公開手段を海外のプラットフォームに依拠する分野や、国際的な共同研究に参画する国内研究者も多く、国際的な連携も踏まえて、こうした動向や課題に対応することが必至である。

本フォーラムでは、NII の学術情報流通推進委員会 (SPARC Japan) に集まったグリーンやゴールド等のオープンアクセスに関わるステークホルダー (JUSTICE、JPCOAR、JST 及び NII) が一堂に会して、現在の学術情報流通に係る動向を俯瞰しながら、オープンアクセスのあり方と今後の日本の取るべき戦略を議論する機会としたい。

## ○ プログラム

ご講演内容	登壇者
はじめに	武田 英明教授 (NII)
SPARC Japan: 学術情報流通推進委員会について	武田 英明教授 (NII)
オープンアクセスに関する最近の動向について	林 和弘様 (NISTEP)
JPCOAR: JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 について	江川 和子様 (JPCOAR 運営委員会会長)
JUSTICE: OA2020 ロードマップについて	笹渕 洋子様 (JUSTICE 運営委員会会長)
JST: JST におけるオープンアクセスについて	小賀坂 康志様 (JST 情報基盤事業部長)
質疑応答とまとめ	登壇者全員

## ○ 会場参加者数及びその感想(抜粋)

210名

- 各団体等からの報告を通して、OA・OSの現状と課題を確認する良い機会となったが、今後の見通しに関してはさほど新しい提言は示されなかった。大学図書館の役割の変化については喫緊の対応が必要と改めて感じた。
- 全ての講演者のお話が大変ためになるものでどれも欠かすことができないのですが、持ち時間が短くて、時間を延長してじっくりお話をしていただきたいかったです。

2020年3月2日  
国立情報学研究所  
学術コンテンツ課

### SPARC Japan セミナー2019 事務局振り返り

#### ● 企画

- セミナー参加者から、下半期だけでなく上半期にも実施してほしいという意見があった（第1回/会場アンケート）。企画WGメンバーの委嘱開始時期にもよるが、キックオフミーティング開催時に、第1回目のセミナー企画を優先的に検討して、早めに関催できるようにしてはどうか。

#### ● 企画WGメンバーの分担

- 各回担当者が3人となったが、この人数だとセミナー当日の運営がやや手薄となってしまう。今年度は個別に他回からの運営補助をお願いしたが、2020年度は各回担当者を4人以上にしてはどうか。あるいは、他回の運営補助もあることを、キックオフミーティング時に事務局からご説明する。

#### ● Slido（すらいど）の利用とパネルディスカッション

- Slidoを使うことによって、数多くの質問が寄せられるようになった。また、パネリスト不在で回答できない場合でも、後日取りまとめてwebサイトで回答する試みもあった。毎回こうした対応を採ることは難しいかもしれないが、パネリスト不在時には、こうした対応をパネリストに相談しても良いかもしれない。
- 一方で、Slidoに寄せられた質問・意見等の対応のみに終始してしまう可能性もあり、パネリストとセミナー参加者との即興的な意見交換、質疑応答が発生しにくい状況にもなっている。パネルディスカッションの途中で、セミナー参加者にも発言していただく機会を設けてはどうか。

#### ● 広報

- 現在事務局からは、メーリングリスト（過去のセミナー参加者、大学図書館コミュニティ）、SPARC Japan webサイト等でセミナーの開催案内を行っている。これらに加えて、研究データ管理をテーマにした場合などは、大学図書館コミュニティ以外の研究支援部署にも広報をするのが良いのではないかと。